

孔子の享年を論ず : 論説

著者	山田, 準
雑誌名	龍南會雜誌
巻	76
ページ	5-11
発行年	1899-12-23
URL	http://hdl.handle.net/2298/5445

孔子の享年を論ず

講師 山田 準

漢土の文化遠く源を唐虞に起え。夏殷を經。周に至て其盛を極む。而て春秋戰國に輩出せる幾多賢哲の士。實に之が樞軸たり。故に苟も當時の學術を攻究せんと欲する者は。必や其學術に密接の關係を有せる是等賢哲の年壽及び在世の時期を攻究せざる可らず。然れども年を經る遙遠。記述備らざるを以て。終に之を確知す可らざるもの多き。孟軻の如き荀卿の如き。皆然らざるなし。唯だ孔子に至ては。百代の師表今古の宗とする所。史之を傳へ譜錄之を記し。其年壽時期亦紛々を容れざるもの如く。試に之を五家村童に質さんか。亦必ず其齡七十三を以て答ふるに躊躇せざるべし。然れども吾人少しく古書に溯り研究の歩を進むれば。其七十三齡未だ必しも確ならず。而て七十四齡の説却て確據あるを發見すべし。請ふ試みに之を辯せん。

夫れ孔子の生年を記するもの。春秋公羊傳及び春秋穀梁傳より古きはなし。而て其歿年を記するもの。春秋左氏傳より古きはなえ。今其の生卒年月を對照せば左の如き。

公羊傳 魯襄公二十有一年十有一月庚子孔子生

穀梁傳 魯襄公二十有一年冬十月庚子孔子生

左氏傳 魯哀公十六年夏四月己丑孔丘卒

魯の襄公二十一年は即ち周の靈王二十年なり。而て左氏補經の哀公十六年は即ち周の敬王四十一年なり。因て今敬王四十一年より溯りて靈王二十年に至れば。歲を得ること正に七十四なることを發見せん。是れ即ち孔子享年の數となす。然るに後人却て七十三歳の説を傳ふるものは何ぞや。是れ

司馬遷の史記に起れり。司馬遷孔子世家に記して曰く。魯襄公二十二年孔子生る。年七十三。魯の哀公十六年を以て卒すと。其後晋の杜預左氏傳に註して史記に従ひ。史記と杜註左氏傳とは獨り天下に横行せるより。七十三歳の説は殆んど學者の定説となり。宋の時、孔子四十七世の孫孔傳、東家雜記を著え。金の世、孔子五十一世の孫孔元措、祖庭廣記を著し。皆史記に従へるを以て。其説益牢固を致え。近世清の孔廣牧、孔子七十世の孫を以て先聖生卒年月日考を著し。公羊穀梁二傳の信す可らざる所以。史記の従ふ可き所以を論じ。辨疏甚だ力めたり。夫れ大勢斯の如きも。吾人を以て之を觀れば。公羊穀梁を抑へ。史記に従ふもの。果して論據あるや否やを疑はざるを得ず。今其諸説を摘擧すれば實に左の如し。

一 魯の襄公二十一年は日再び食せり。決して聖人を生ずる年に非ず。金履祥通鑑綱目前編

二 公羊穀梁は初め師弟の口授に傳はり。漢の時始て書を成せり。誤りなしと云ふ可らず。夏洪基孔子年譜

三 穀梁は孔子の生を冬十月庚子と書し。公羊は十有一月と記え。二書合せず。且つ公羊の十一月には庚子の日なし。誤謬斯の如し。信す可らず。孔子年譜及曹份論語大全

四 五代史の馮道傳に。道死する時年七十三。時人孔子と壽を同ふすと稱嘆せり。以て七十三の説を確む可し。梁玉繩今古表攷

五 金の孔元措の祖庭廣記に。世本を引て襄公二十二年孔子生ると記せり。史記は世本に従へるなり。故に信す可し。孔廣牧先聖生卒年月日考

六 世本は黃帝以來王公卿大夫の祖系を記せる書に之て。班固の著せる漢書司馬遷傳贊には。之を左氏傳國語の次に記せり。秦以前の信書なり。同上

を左氏傳國語の次に記せり。秦以前の信書なり。同上

七 司馬遷は石室金匱の書を紬きて史記を著すと傳へられ。博物洽聞の士なれば。其言信據すべ
之。同上

七十三を主張する諸説を約言すれば。概ね左の七説に歸す。初の四説は公羊穀梁の信す可らざるを
言ひ。後の三説は史記の信すべきを論せるものなり。以上の論據其れ果して確然動かす可らざるか
請ふ順次之を駁撃せん。

一 日蝕兩度の年は聖人生れずと。是れ果きて何の道理ぞ。本説の如きは眞に一顧の値なし。

二 公穀は口授なれば誤ならずと。然り。公穀固より誤なまと言はず。然れども此點を以て史
記に従はんとするは道理なき見解なり。夫れ史記は何に本けるか。口授傳説に非ざれば成書
に本くなり。成書果して誤なまと云ふべきか。漢士の書たる。周秦の際。文字の體數々變じ。
又其の書籍。竹簡漆書より縑素墨書に變ずる等の事あるを以て。古書一として誤脱なきはな
く。種入なきはなく。轉訛なきはなく。學者常に之に苦む。此點に於ては。口授却て書冊に
優る利便なきに非ず。且つ姑く一步を譲るも。冗長なる文辭議論に至ては。口授或は間々誤
傳を生ずべし。聖人の生年に至ては。其事や重く。其言や簡なり。然るに公羊穀梁二家を通
じて皆一年の誤を傳ふと云ふは。吾人の殆ど信する能はざる所なり。況や是を捨て、史記を
信せんとするをや。

三 公羊と穀梁と月を記するに於て相合せずと。然り今本は二書相違せり。然れども古本の公羊
傳には。十有一月の四字なかりしなり。故に唐の陸德明は公羊音義を著す。孔子生の下に註
えて。上文に十月あれば此も亦十月なり。一本には十一月に作ると云へり。然れば唐初の公

羊傳は。穀梁傳と同じ十月の記事にして十有一月とあるは誤本なり。後人誤本に因り。公羊穀梁の相違を疵議するは所謂的を失ふものなり。従て十一月に庚子なしと云へる非難。亦辯するに足らず。

四 馮道七十三にて死し。時人孔子に比すと。是れ時人が史記の説を信せる證となすべし。未だ公羊穀梁の信す可らざるを證するに足らず。

五 史記は世本に本くどの説。是れ亦信す可らず。夫れ漢魏以來。孔子の年壽を論ずる者少からず。而て一人の世本を引て之を證するものなきは疑はまからずや。始て此説を成せる祖庭廣記は。金の哀宗正大四年。即ち南宗の理宗寶慶三年に成れり。是時に至り始て此説を標出するも疑はまからずや。清の孔廣牧云ふ。世本は宋の南渡後亡ふと。然らば、祖庭廣記の著者亦親ら世本を見しに非ず。益疑はまからずや。祖庭廣記に引ける世本と。史記の記事は多く相違せり。史記には孔子の父顔氏之女と野合せる事を記するも。世本に記せざる如き其一例なり。史記果えて世本に本くと云ふを得べきか。

六 世本は果えて信書なるか。孔子の書を削るや。筆を唐虞に起せり。上古の事信を取り難きを以てなり。世本は黃帝以來の事を記すと云ふ。果して信すべきか。流傳宋に至り。南渡後忽ち亡ふと云ふに至ては。最も信し難ま。姑く一步を譲り。世本は歴史上多少信據すべき所ありとするも。其書亡佚すること已に久ま。祖庭廣記に云へる世本は。思ふに後世の僞書に非ざれば。則ち捏造して信を取らんとせる後人の附加説に過ぎざるべき。

七 司馬遷は博物洽聞其言必據あらんと云ふ。是れ論據なき辯護に過ぎず。夫れ史記の書たる。

果てて誤謬なきか。姑く班固の言司馬遷傳贊を借りて之を評せん。其言に曰く。史記の書。秦漢

の事を言ふは詳なれども。經を採り傳を撫ひ。或は數家の事を分散するに至ては。甚だ疏畧

多く。或は牴牾する所ありと。司馬遷亦自ら史記編述の精神を吐露して曰く。近ごろ自ら無

能の辭に託て。天下の放佚せる舊聞を網羅す。夫れ放佚せる舊聞を網羅せる史記と。經

師相授受せる公羊穀梁の書と。孰れか信。孰れか誤。亦辯明を須たすて明ならん。

夫れ以上の所説にして大謬なくば。公羊穀梁の容易に排斥す可らざる。史記の甚だ信據するに足ら

ざる。七十三説の論據最も薄弱なること。歴々として明ならずや。然るに後世學者。此點に向ふて

深く研究の歩を進めざるは何ぞや。眷々として史記に措く能はざるは何ぞや。試みに山堂肆考を著

せる彭翼の説を見んか。曰く。余金陵に遊び。孔子六十代の孫承先と云ふ者に邂逅す。孔子の像誌

を余に授く。其内に稱す。至聖先師は魯の襄公二十二年に生ると。先師の生年月日。其子孫相傳ふ

るものより出つるは當さに其眞を得べしと。又夏洪基の孔子年譜を見んか。曰く。孔子七十三歳の

説諸書に見ゆ。今之を七十四歳と謂へば。大に人聞を惑かさんと。學者の見解大率斯の如し。是を

以て孔子の年壽多くは姑息摸稜の間に埋められ。眞誠の研究を積て。確然不易の説を立つる能はざ

る所以に非ざるか。今公羊穀梁を主とする數家の説を左に列舉せん。

明の宋濂孔子生卒歳月辨著す曰く。

公羊穀梁二氏。傳經之家也。傳經之家。當有講師以次相授。且去孔子時又爲甚近。其言必有據。

司馬遷固良史。則後於穀梁公羊者也。吾則無徵乎爾。孔子所生之年。吾當從公羊氏穀梁氏。所

卒之年。吾當從左氏。其年乃七十四。謂七十三者尤非也。衆言紛淆者。當折衷以經。經無明載。

嘗、索之於傳。索之於傳。不猶愈於史乎。

清の孔繼汾

孔子六十九世の孫、
爾里文獻考る者す

曰く。

徵史記不如徵傳。公穀得年七十四云。

清の段玉裁

經韻樓集
に見ゆ

曰く。

以上數説。平允切當。蓋之動かす可らざるなり。余乃ち更に數言を加へて曰く。漢の應邵・唐の陸德明・顏師古・孔穎達等皆曰く。公羊穀梁は孔門子夏の門人なりと。以て公穀二氏の人物及び學問授受の信據すべきこと斯の如し。公穀の書は。體に於て編年體なり。歳を分ち月日を追ふて事を記せり。故に年月の記事に於ては。記傳體に比して謬誤少きこと明なり。公穀の書たる。措辭謹嚴に於て。經文に隨ひ解釋之。先儒が左氏傳を評えて浮誇と云へると大に其趣を異にす。故に宋の朱熹は。左氏は史學公穀是經學の言あり。而して二氏の書漢初皆學官に採用せられ。専門博士を置て教授せられたり。其信據す可きと斯の如し。後世學者尙ほ之を斥けて。史記を信せんとするは果して何の心をや。余乃ち自ら量らず。之を斷すると左の如き。

孔子生 魯襄公二十一年十月即周靈王二十年

孔子卒 魯哀公十六年四月即周敬王四十一年

孔子壽 七十四歲

之を要するに。論議の極。僅に一年の差を見るに過ぎざれば。亦甚た研究の勞を費すに及はざる如し。然れども方今東西交通。文運旺盛。百科の學精を盡し微に入るの時に當り。吾人東洋に生れ。

斯學の餘流を酌む者。而して先聖の年壽に於て。正確なる答辯を與ふる能はざるは、豈に一缺典に非ずや。且つ古今年表の學者に缺く可らざるは、旅行家の地圖に於ける如き。今茲に一年表を編せは。必ず孔子の生年を特筆せざる可らず。編者果えて何れの年に向ふて之を編入せんとするか。況や孔門諸弟子の年齢に於ける。多く之を孔子に本づけ。孔子より少き幾歳と傳へらるゝもの多し。孔子の享年明ならずんば。諸弟子の年齢亦何に因て信を取らんか。其の關係する所鮮少に非ず。是れ余の呶々の辯を費す所以なり。

智情意調和の必要

(未定稿)

岡 嶋 誘

仰ぎて遠く望めば蒼天高く覆ひて涯なく俯せば地盤八方に横はりて廣茫漠々盡くる所を見ず相隔する幾千里上は日月星辰より下は山川草木に至るまで森羅萬象占め得し宿纏に麗かる麗るが中に人なる躰あり天女の容か仙人の姿か我は之を知らず唯生理學は教ふ二百數個の骨は脊椎となり胸肋となり骸骨となり譬へは家屋の柱の如く桁の如く棟の如く骨は骨を相支へ相合し此は彼に據り彼は此に連なり個々連續の一全体を形成り絶妙なる一致の大觀を呈す皮は壁の上塗こはみりに似筋肉は寸沙ある泥土に類えて之を抱蔽之五臟六腑内に其營養を司り四肢五官外に其運用をなし腦髓神經脈絡貫通之整然として紊れず即ち之を指して人なる體と稱す而かも其生物にして原素の聚積たる何の時か機能傷損し腐爛を免れざる甚まきは内臓の膨動止み外官其能を失ひ共に屍體は元素の分解を始め敷して極微